

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470205323
法人名	社会福祉法人 三篠会
事業所名	グループホーム鈴が峰
所在地 (電話番号)	広島県広島市佐伯区五日市町皆賀104番27 (電 話) 082-943-8888

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年1月23日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年11月1日	
ユニット数	2 ユニット	18 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.2人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート造 地上3階建3階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000～105,000 円		その他の経費(月額)	－ 円
敷 金	有(円)		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	－ 円	昼食	－ 円
	夕食	－ 円	おやつ	－ 円
	1日あたり780円			

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 人	男性	2 人	女性	16 人
要介護1	4 人	要介護2	8 人		
要介護3	5 人	要介護4	1 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 84.6 歳	最低 76 歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 一陽会 原田病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム鈴が峰は、利用者が地域の一員として、地域の中で暮らし続けるために、一人ひとりの目線に立った介護をめざしており、管理者、職員全員で話し合い、ホーム独自の理念がつけられています。また、理念をもとに、各ユニット名の頭文字をとった、具体的に親しみやすい目標が定められており、職員間で理念を共有しながら、目標の達成に向けて取り組まれています。

生活歴から利用者一人ひとりの趣味の把握に努め、編み物や書道など趣味活動の発表の場が設けられている他、週2回、利用者の希望に応じて、スーパーへの買い物やドライブ、外出に出かけられており、これらの取り組みが日々の暮らしの中で、利用者の気分転換や楽しみへつながるよう取り組まれています。

また、掃除や料理など利用者の「得意なこと」「できること」を役割として担ってもらい、日々の生活に張りあいや自信をもてるよう取り組まれている他、利用者の日々の暮らしぶりや表情を伝えるホーム便り「虹の橋」を利用者と一緒に作成し、利用者に色を塗ってもらったイラストを使用するなど、利用者が役割やできあがった喜びを感じられるよう、役割づくりや場面づくりの工夫が行われています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、共有スペースの有効活用や雰囲気づくりが課題となっていました。評価結果をもとに、共有スペースにベンチやソファを設置するとともに、利用者の手づくりの作品を飾り、季節感の感じられる空間とするなど、利用者がくつろげるような環境づくりの工夫がすすめられていました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は、自己評価、外部評価の意義をよく理解されており、評価結果をもとに、具体的なサービスの改善へつなげるなど、評価を活かしたサービスの質向上に積極的に取り組まれています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度の運営推進会議の開催は1回のみでしたが、今後は3か月ごとの開催を計画されています。また、食事会を兼ねて利用者の暮らしを知ってもらったり、外部評価への取り組みを報告するなど、意見交換の機会となるよう計画されていますので、今後は、運営推進委員の人材やネットワークを活用しながら、さまざまな立場の人の意見をサービスの質向上に活かされることを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱の設置や訪問時の声かけなど、家族が意見を伝えやすい雰囲気づくり、機会づくりに取り組まれています。また、職員自ら考え、作成したアンケートが実施されており、家族の思いを大切にしたいサービス提供が行われています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敷地内で用件が満たされる総合施設ということもあり、地域との関わりが薄くなりがちですが、夏祭りや学区運動会などの地域行事に積極的に参加し、地域の人との交流を深められています。また、入居後も地域のいきいきサロンに参加するなど、利用者のこれまでの地域活動が継続できるよう支援されています。施設内に地域包括支援センターが設置されていますので、地域の人の来所等の機会をとらえ、関係や理解を深めるきっかけとしたり、他事業所や民生委員、地区社会福祉協議会等の人的ネットワークを活用し、地域との交流が広がるような機会づくりに取り組まれることを期待します。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者それぞれが、地域の中で暮らし続けるために、一人ひとりの目線に立った介護をめざし、管理者、職員全員で話し合い、3つの「J」を頭文字とする「慈愛に満ちた」「自由で安心」「笑顔あふれる“充実”した毎日」というホーム独自の理念がつくられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもとに、「もりもり食べて・み～んな元気・じゆうな生活」「わらいの絶えない・かいてきな雰囲気・ばりあふりいな環境」という各ユニット名の頭文字を工夫した具体的で親しみやすい目標が定められており、職員間で理念を共有しながら、目標の達成に向けて取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街と離れた場所に位置し、敷地内で用件が満たされる総合施設ということもあり、地域との関わりが薄くなりがちですが、夏祭りや学区運動会などの地域行事に積極的に参加し、地域の人との交流を深められています。また、入居後も地域のいきいきサロンに引き続き参加するなど、利用者のこれまでの地域活動が継続できるよう支援されています。今後も、民生委員、地区社協と連携を図りながら、積極的に交流の機会づくりをすすめられるよう期待します。	○	施設内に地域包括支援センターが設置されていますので、地域の人の来所等の機会をとらえ、関係や理解を深めるきっかけとしたり、他事業所や民生委員、地区社会福祉協議会等の人的ネットワークを活用し、地域との交流が広がるような機会づくりに取り組まれることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、自己評価、外部評価の意義をよく理解されています。評価結果をもとに、共有スペースにベンチやソファの設置を行うなど、利用者がくつろげるような環境づくりの工夫がすすめられており、評価を活かしたサービスの質向上に積極的に取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議の開催は1回のみでしたが、今後は3か月ごとの開催を計画されています。また、食事を兼ねて利用者の暮らしを知ってもらったり、外部評価への取り組みを報告するなど、意見交換の機会とすることを計画されていますので、今後の取り組みを期待します。	○	運営推進委員の人材やネットワークを活用しながら、さまざまな立場の人の意見をサービスの質向上に活かされることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、区長寿課職員の参加が得られている他、施設内に設置された地域包括支援センターを通じて、日常的に行政と連携しながら、サービスの質向上に協働して取り組まれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりについて、電話や家族の訪問時に随時報告されています。また、利用者と職員が協力して作成されているホーム便り「虹の橋」には、カラー写真や職員の手書きのコメントを入れ、利用者の表情や暮らしぶりが伝わるように工夫されている他、利用者が色ぬりをしたカットも掲載されており、あたたかい雰囲気が感じられます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や訪問時の声かけなど、家族が意見を伝えやすい雰囲気づくり、機会づくりに取り組まれています。また、職員自ら考え、作成したアンケートが実施されており、家族の思いを大切にサービス提供が行われています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員の異動等が生じた場合には、家族へ報告を行うとともに、生活の中でゆるやかに情報を伝えるなど引き継ぎの方法を工夫し、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう努められています。また、新任職員には、教育担当者から継続的な指導が受けられるよう勤務調整を行いながら、1か月以上かけてOJTを実施するなど、なじみの関係を大切にサービス提供に取り組まれています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験などの段階に応じた研修が計画、実施されている他、外部研修に積極的に参加されています。また、研修終了後には、ミーティングの機会を活用し、研修内容の伝達が行われており、職員全員で知識や技術を共有しながら、ケアのスキルアップにつなげられるよう取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者関連の指導者研修の講師として管理者が活動されていることから、事業者間のネットワークが築かれており、相互の活動を通じたサービスの質向上に取り組まれています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、利用者の性格や生活歴について把握するとともに、それらの情報を職員間で共有しながら、利用者一人ひとりの状況に応じたなじみの関係づくりに取り組まれています。また、併設施設のデイサービス、ショートステイを活用するなど、利用者の環境変化によるダメージを最小限に抑えるように配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ばれ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員、利用者ともに、「介護する」「介護される」という意識を持たず生活できるよう配慮されており、共に生活する中で、自然とお互いが支え合えるような場面づくりに取り組まれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の思いや希望の把握に努めるとともに、全職員でミーティングを行い、それらがサービスに反映できるよう検討されており、利用者・家族の思いや希望が日々のケアに活かされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、医師、看護職員、介護職員等が参加するケアカンファレンスを開催し、利用者・家族の意向をもとに多職種で連携を図りながら介護計画の検討が行われており、さまざまな立場の意見が計画に反映できるよう体制が整えられています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの状況の把握に努めるとともに、現状に応じたケアが提供できるよう随時計画の見直しが行われており、家族の同意も得られています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のリハビリ施設やデイサービスセンターの温泉の利用などで、利用者の気分転換を図るなど、総合施設の持つ多様な機能を活用しながら、利用者・家族の思いに柔軟に対応されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医の確認が行われており、通院や往診等、かかりつけ医と連携を図りながら、希望に応じた医療が継続して受けられるよう取り組まれています。また、必要に応じて整形外科、眼科など専門医の往診が実施されている他、併設事業所の嘱託医との連携も確保されており、利用者の健康を支援する体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期について、利用前に本人、家族の意向を把握するとともに、主治医や医療機関と連携しながら、最善の対応について話し合い、方針が定められています。また、それらの内容を職員全員で共有し、利用者や家族の思いに十分配慮しながら、適切な対応が行われています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけによって、利用者の尊厳を傷つけることのないよう、具体的な例があげられた「禁句チェック表」の記入が毎日行われており、職員一人ひとりが自らを振り返りながら、受容、傾聴の姿勢を心がけられています。また、記録等の個人情報の保護にも留意されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性や特技を尊重し、その人らしいペースで穏やかに過ごせるよう取り組まれています。また、夜間の入浴にも対応するなど、ホームの都合を優先することなく、できる限り利用者の希望に沿った暮らしが送れるよう支援されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設する施設の厨房で作られていますが、食事前の献立の説明や配膳・後片付けなど、利用者が主体的に活動できる場面づくり、役割づくりが行われており、いきいきとした表情で活動するエプロン姿の利用者が見受けられました。また、月に1回開催される、料理会や誕生会には、家族の参加を呼びかけるなど、利用者が食事を楽しみに感じられるよう取り組まれています。	○	ホームの方針として、職員1人のみが利用者と一緒に食事をとることになっており、他の職員は、別室で食事をとっています。これにより、職員間の連絡やミーティングを行えるという良さもありますが、利用者と職員が同じテーブルを囲んでの会話やさりげない関わり方についても工夫をすすめて、さらにステップアップした取り組みとされることを期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土・日曜日には、併設事業所の温泉を利用した入浴が行われており、利用者の楽しみへつながっています。また、利用者の希望に応じた時間帯での入浴が実施されており、夜間の入浴にも対応されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から趣味の把握に努められており、レクリエーション担当の職員によって、利用者一人ひとりに応じた、編み物や書道、カラオケなどの楽しみごとが計画・実施されています。また、掃除や料理など、利用者の「得意なこと」「できること」が日常生活の中で、役割となるように場面づくりに取り組まれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩が行われている他、週2回、利用者一人ひとりの希望に応じて、スーパーへの買い物やドライブ、外食に出かけられており、外出が気分転換や楽しみへつながるよう取り組まれています。また、外出時に、自宅へ洋服の着替えを取りに立ち寄るなど、利用者のこれまでの生活や地域とのつながりを大切に支援が行われています。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全に配慮し、夜間のみ玄関を施錠されていますが、鍵をかけることで、利用者が暮らしに閉塞感を感じないよう、日中は鍵かけを行わず、自由に活動できるよう取り組まれています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	併設施設と協力しながら、定期的に避難訓練を実施されている他、地域の消防署の主催する勉強会に参加するなど、職員の防災意識の向上に努められています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況の確認と記録を行い、一人ひとりの状況の把握に努められており、糖尿病を持つ利用者への食事量の調整や刻み食等の咀嚼力に応じた形態の食事提供が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	眺望のよい高台に位置しており、広い南向きの共用空間は、自然の光が射し込む明るい空間です。天井の照明には、光の調節のために利用者と一緒につった布のシェードをかけ、上品な雰囲気を醸し出しており、やすらぎとゆとりを感じさせます。また、並び替えのできるソファを設置するなど、利用者一人ひとりがくつろげる空間づくりがすすめられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたなじみの家具等が居室に持ち込まれており、利用者・家族と相談を行いながら、居心地よく過ごせるよう工夫されています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム鈴が峰 1

評価年月日 19 年 12 月 日

記入年月日 19 年 12 月 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 計画作成担当者 氏名 安光 邦子

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員全員が協議し、独自の理念をつくりあげている。	○	入居者が地域の中で充実した生活を送っていただけるよう、事業所独自の理念をつくりあげている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の共有を常に図り、実践している。	○	自由、充実、慈愛に満ち溢れた生活を送っていただけるよう、実践に向け取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	開設して3年経過するがまだ十分な理解を得てるとはいいい難い状況である。	○	地域密着型サービス事業所として、入居者が地域で充実した生活が送れるよう、今後も取り組んでいきたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	努めてはいるが立地的にもなかなか難しい状況にある。	○	日常のお付き合いができるよう、周囲への理解を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	様々な地域の行事に出来る限り参加している。	○	学区の運動会や生徒との交流や、入居前から参加している地域活動の継続支援。今後もさらに地域に根ざした交流に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	話し合いは実施しているが、実行には至っていない。	○	地域の方に認知症を理解していただくとともに、認知症で困っている方への助言等行いたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回、前々回ともに評価していただいた内容について、事業所内で考察し、改善を行っている。	○	余ったスペースの有効活用。高齢者に適した生活環境改善。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年度1回開催のみに止まっている。	○	地域への理解、サービスの向上の為に、今後は3ヶ月毎に開催予定としている。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	実施できていない。	○	今後機会の確保に努め、取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員全員への周知は徹底できていない。	○	管理者と話し合いをし、内部研修のテーマとして取り上げる予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	努めている。	○	今後も更に深める為に勉強会等の機会を持ちたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に必ず相談員、計画作成担当者とともに、詳しい説明を行っている。	○	解約時も家族、施設間が良好な関係を保てるようフォローに努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情処理委員会を設置している。また定期的に顧客満足度調査を実施し、サービス向上に努めている。	○	今後も継続して実施予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、入居者のご様子をお手紙で家族へ報告している。家族限定に配布する「虹の橋」にて職員の異動についても報告している。	○	今後も継続して実施予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に、重要事項説明書及び口頭にて説明している。	○	今後も継続して実施予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が多忙であり、主に計画作成担当者とは接していない。	○	今後は管理者と全介護職員との意見交換の場を設けたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者と計画作成担当者が連携し、調整している。	○	今後も継続して実施予定。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	配慮に努めてはいる。	○	異動や離職を完全には防げないが、今後も利用者の混乱をふせぐよう努めたい。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	進めている。	○	管理者は積極的に研修参加を推奨し、介護職員のスキルアップを全面的に図っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流は全くないことは無いが、訪問等充分に行えていない。	○	交流を図り、他事業所での取り組みや考えを学ぶことにより、サービス向上につながると考えられるため、今後取組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	充分取り組んでいない。	○	職員のストレスが軽減されるよう工夫や改善に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は職員の能力・実績を把握できている。	○	各自が向上心を持って充実して働けるよう、現状を把握し、サービス向上につながる。
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	日々の様々な訴えに対し、否定せず傾聴を心がけ、個別に対応している。	○	今後も利用者の不安軽減に努め、安定した生活を送っていただけるよう支援していく。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談者からの問い合わせに対し、真摯に受け止める努力をしている。	○	電話対応のみならず、施設を見学していただき、信頼関係を築けるよう努めている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	幅広くサービス内容を広げ、個々の状態にあった対応をしている。	○	何らかの形でプラスとなるよう、相談援助業務遂行に励んでいる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前から現場職員に、状態等よく説明し、落ち着いた生活を送っていただけるよう配慮している。	○	細かい性格や生活歴を家族から随時聞き出し、他の入居者とも馴染みの関係が作れるよう努力したい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者とともに生活をしながら、相互的に友好を深めている。	○	日々当たり前にある様々な場面で、入居者と密着した生活を心がけている。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常時、家族への連絡・報告・相談を徹底して行っている。	○	直接、入居者の処遇に無関係な話題であっても、遠慮なく話をしていただけるよう、雰囲気作りを行っている。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居者、家族間の関係を良好に保てるよう配慮している。	○	入居者本人と家族の思いを両面から受け止め、良好な関係の維持に努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の要望に即した対応を心がけている。	○	住み慣れた地域との繋がりが途絶えぬよう、今後も支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を考慮した対応を行っている。	○	食事の席、外出時の組み合わせ等、トラブルが起きないように努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了後も、相談に応じている。	○	利用終了後、再度利用希望があった際には、当ホームを選んでいただけるよう関係継続に努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護ミーティングを重ね、全職員で入居者・家族の意向を確認し、問題点が出た場合も検討しケアを実施している。	○	連絡帳・ケアカンファレンスを通して共有している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の家族・本人との面接時に、過去の生活歴やこれまでの情報の把握をしている。	○	入居前の面接には充分時間をかけて、確認を行いたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	十分に把握できるよう、日々観察し、コミュニケーションを図っている。	○	日々状態に変化のある入居者の様子を細かく観察し、総合的に把握するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族も含め、医師・看護師・介護職員等の多職種で協力し、介護計画を作成している。	○	ケアカンファレンスにて、全職員が統一したケアを提供できるようにしている。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	都度、小ミーティングを開催し、状態に応じた対応ができるよう努めている。	○	今後も家族の同意を得たうえでの対応策を検討していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ケース記録・連絡帳を通して、職員間での情報の共有を図り、ケアの実践に取り組んでいる。	○	日々細かく変動する状態を必ず記録し、記録物には常に目を通すように全職員が徹底して行っている。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者本人や家族の思いを汲み取り、できる限り細やかな対応に心がけている。	○	本人や家族とよく話し合いをし、グループホームの特性を活かした、決め細やかな支援を実施している。
----	--	--------------------------------------	---	---

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	今のところ、十分な取り組みができていない。	○	今後は、管理者とも協議を重ね、地域に浸透していけるよう努力したい。
----	---	-----------------------	---	-----------------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて協議している。	○	入居者の状態や必要性に応じて、家族も含め協議していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて協議している。	○	入居者の状態や必要性に応じて、家族も含め協議していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前より家族と話し合い、家族の意向をお聞きし、継続してかかりつけ医と連携を図っていけるよう支援している。また、特に希望が無い場合には、併設する特養の嘱託医と連携をはかれるよう、体制を整えている。	○	整形外科医、眼科医の往診を受けており、施設で出来る限りの医療ケアを提供できるよう努めている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	外来通院にて認知症に詳しい専門医と連携を図っている。	○	専門の医療機関に係る場合には、必ず家族の同意のもと、一緒に診察を受けるよう配慮している。今後も医療機関との関係を保ち、適切な医療を受けられるよう支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日々看護師に状態を伝え、健康維持に努めている。	○	今後も継続して連携を図っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、入居者本人の様子を病院側に詳しく説明し、対応がスムーズになるよう支援している。入院中も必ず様子を伺うようにしている。	○	入居者、家族に満足して頂けるように、今後も努力して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居前の面接時に本人・家族へ確認し、入居以降も更に主治医とも症状について話し合い、具体的な対応について全職員で共有している。	○	主治医、他医療機関とも連携し、最善の方法を話し合い、本人、家族の意向を含めた内容を全職員で共有している。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所のできる限りの範囲で提供するよう努め、急な変化にも充分対応できるように、全職員で取り組んでいる。	○	密接に家族と関わり、医療とも連携し、統一したケアの提供に努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化に伴う精神的混乱を最小限度に留めるよう、家族、医療機関も含め話し合い、情報の共有に努めている。	○	なるべく環境の変化を感じさせないよう配慮した支援を行っている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	自尊心を傷つけることのないよう十分に配慮した対応を徹底し、個人情報の保護にも留意している。	○	言葉遣いには特に注意し「禁句チェック」を実施し、受容、傾聴の姿勢を心がけた対応に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の尊厳を重視し、自己決定を行えるようコミュニケーションを展開している。	○	各職員が研修等に参加したり、自己学習を行い、コミュニケーションの技術を磨き、対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に入居者のペースに合わせ、その日の希望にできるだけ添えるよう支援している。	○	入浴の時間は入居者の希望に合わせ、夜間入浴も実施している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の更衣については、ご本人の意思に一任している。 入居前からの馴染みの美容院に行きたい等の希望がある方には、協力している。	○	月 1 回の出張理美容サービスを殆どの方が利用されている。今後は、面談時に理美容について希望を聞きだせるよう、フェイスシートの項目に追加する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者が楽しみながら、できる作業をしていただけるよう支援している。	○	入居者が自発的に家事が行えるよう、支援していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者のお体の状態に合わせた嗜好品の提供をしている。	○	今後も本人の好みに配慮しつつ、主治医とも連携を図る。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握するのは困難ではあるが、皮膚の疾患にならないよう、できるだけ清潔を保てるよう努力している。	○	今後も状態の把握に努め、オムツを減らすよう努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合ではなく、入居者の希望に沿った入浴をしていただけるよう、支援している。	○	併設施設の温泉や別のユニットでも入浴していただく等、柔軟な対応お心がけている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	外部評価でもご指摘いただいた、開いた空間の有効利用で、入居者同士が語り合えるよう環境整備に努めた。	○	今後も環境改善はもちろん、充実した生活をおくっていただけるよう支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を把握したうえで、入居者一人ひとりに適した活動（編み物・書道・カラオケ・製作・散歩・料理等）を提供している。	○	今後も更に活動領域を広げて対応して行きたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を行える方が少ない現状ではあるが、できる方には買い物場を提供し、支援している。	○	施設内での売店（月2回） 外出時の買い物（週2回）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に沿って、施設外への外出を支援している。	○	個々のその日の状態や希望を考慮した散歩、ドライブを今後も継続する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個別に誕生日の時などに、家族と共に外出する機会をつくり支援している。	○	今後も個別に希望を伺い対応したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由にやり取りが出来るように配慮した対応をしている。	○	携帯電話の利用や、手紙・ハガキを用意していつでも利用出来る様に対応して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方との関係が途絶えることの無いよう、いつでも訪問して頂ける環境作りをしている。	○	訪問時の場所の確保に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部・外部研修、ミーティングにおいて、理解を深め、身体拘束ゼロに向けたケアを行えるよう全員で取り組んでいる。	○	今後も継続して取り組んで行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間20時30分～翌朝の7時00分の間玄関のみ、施錠している。	○	居室はもちろん、グループホーム外にも自由に行き来していただけるよう、開放的な環境づくりに努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者がどこにいるのかを、職員間で確認しあい、所在把握に努めている。	○	入居者の中には、密着しすぎることを拒む方もいらっしゃるるので、個別に対応している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	共用スペースにおいては、状況・時間帯に応じて、入居者に危険が及ばないよう、危機管理をしている。	○	個々の状態に応じて、危険回避に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修等に参加し知識を深めると同時に、入居者一人ひとりに適した事故防止策についてはケアカンファレンスにおいて、積極的に検討している。	○	職員全員がケアカンファレンスの重要性を理解し、より充実したケアカンファレンスが出来る時間の確保に努める。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	ほぼ全ての職員が、ある程度の急変時に対応できるよう、日々、看護師から指導を受けている。	○	全職員が入居者の既往歴や薬の種類等の把握に努め、急変時に適切な対応が取れるよう、取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人々の協力を得るには至っていないが、定期的に訓練を実施している。	○	職員は地域の消防署が主催する勉強会に参加し、防災に対する意識向上に努めている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者ごとにリスクマネジメントを実践している。	○	介護計画作成時、リスクについて検討し、対応に活かしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の体調に変化や異変にはできるだけ早く発見し、主治医・看護師と連携し、対応できている。	○	職員は内部研修にて、知識を深めるとともに、夜間帯における急変時の対応についても、マニュアルを作成し、迅速な対応を実行せきえるよう体制を整備している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	殆どの職員は薬の内容について充分理解できており、常時学習していく姿勢がある。	○	症状と薬の効果・副作用等の知識を深めていきたい。また、今後も誤薬防止に努め、確認に確認を重ねるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	主治医・看護師との連携はもちろん、内部・外部研修にも積極的に参加している。	○	管理栄養士との連携強化を図っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後とは言えないが、一人ひとりの状態を把握し、口腔ケアに取り組んでいる。	○	今後も歯科医師・歯科衛生士と連携を図り、口腔衛生の保持に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりの状態に応じた必要摂取量の把握ができています。急な食事形態の変更にも迅速に対応しています。	○	入居者の嗜好に応じた食事の提供ができるよう，管理栄養士と連携を図っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症対策には施設全体で取り組み，全職員重要性を理解し，周知徹底している。	○	感染症対策の知識を更に深め，予防や発生後の対応について強化したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	管理栄養士からの指導を受け，衛生管理に留意している。	○	食材に関しては管理栄養士と連携し，新鮮な食材を提供している。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の人等の交流はできていない。	○	施設は高台に位置しているため，なかなか難しい現状である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者とともに作った，季節感を取り入れた製作品を展示したり，照明にも配慮するなど，居心地の良い共用空間の確保に努めている。	○	今後も穏やかに過ごしていただけるよう，季節感溢れる共用空間を提供していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間においてはスペースの問題も有り、なかなか確保が難しく、完全な提供には至っていない。	○	何とか工夫し、一人になれるスペースを確保したい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前からの使い慣れた物を持ち込んで頂き、施設でも変わらず穏やかに生活して頂ける配慮をしている。	○	馴染みの家具、備品を使って頂くように、本人、家族に依頼し、持ち込んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員の体感温度ではなく、入居者の状況に応じた温度設定を心がけ、換気にも配慮している。	○	換気は定期的に行い、臭いの特に気になる所には脱臭機を設置して対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立心を奪うことのないよう、残存機能に配慮し、楽しく生活が送れるように留意している。	○	安全で、拘束のない生活を提供して行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの理解力を把握し、活かして頂けるように心がけている。	○	今後も継続する。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダのスペースに問題はあるが、できる範囲で楽しんで頂けるように配慮している。	○	散歩や洗濯物の干し場に留まっているので、もっと有効的に利用して行きたい。

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム鈴が峰 2

評価年月日 19 年 12 月 日

記入年月日 19 年 12 月 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 計画作成担当者 氏名 内藤 アツ子

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員全員が協議し、独自の理念をつくりあげている。	○	入居者が地域の中で充実した生活を送っていただけるよう、事業所独自の理念をつくりあげている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の共有を常に図り、実践している。	○	自由、充実、慈愛に満ち溢れた生活を送っていただけるよう、実践に向け取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	開設して3年経過するがまだ十分な理解を得てるとはいいい難い状況である。	○	地域密着型サービス事業所として、入居者が地域で充実した生活が送れるよう、今後も取り組んでいきたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	努めてはいるが立地的にもなかなか難しい状況にある。	○	日常のお付き合いができるよう、周囲への理解を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	様々な地域の行事に出来る限り参加している。	○	学区の運動会や生徒との交流や、入居前から参加している地域活動の継続支援。今後もさらに地域に根ざした交流に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	話し合いは実施しているが、実行には至っていない。	○	地域の方に認知症を理解していただくとともに、認知症で困っている方への助言等行いたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回、前々回ともに評価していただいた内容について、事業所内で考察し、改善を行っている。	○	余ったスペースの有効活用。高齢者に適した生活環境改善。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年度1回開催のみに止まっている。	○	地域への理解、サービスの向上の為に、今後は3ヶ月毎に開催予定としている。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	実施できていない。	○	今後機会の確保に努め、取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員全員への周知は徹底できていない。	○	管理者と話し合いをし、内部研修のテーマとして取り上げる予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	努めている。	○	今後も更に深める為に勉強会等の機会を持ちたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に必ず相談員、計画作成担当者とともに、詳しい説明を行っている。	○	解約時も家族、施設間が良好な関係を保てるようフォローに努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情処理委員会を設置している。また定期的に顧客満足度調査を実施し、サービス向上に努めている。	○	今後も継続して実施予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、入居者のご様子をお手紙で家族へ報告している。家族限定に配布する「虹の橋」にて職員の異動についても報告している。	○	今後も継続して実施予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に、重要事項説明書及び口頭にて説明している。	○	今後も継続して実施予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が多忙であり、主に計画作成担当者とはしか接していない。	○	今後は管理者と全介護職員との意見交換の場を設けたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者と計画作成担当者が連携し、調整している。	○	今後も継続して実施予定。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	配慮に努めてはいる。	○	異動や離職を完全には防げないが、今後も利用者の混乱をふせぐよう努めたい。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	進めている。	○	管理者は積極的に研修参加を推奨し、介護職員のスキルアップを全面的に図っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流は全くないことは無いが、訪問等充分に行えていない。	○	交流を図り、他事業所での取り組みや考えを学ぶことにより、サービス向上につながると考えられるため、今後取組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	充分取り組んでいない。	○	職員のストレスが軽減されるよう工夫や改善に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は職員の能力・実績を把握できている。	○	各自が向上心を持って充実して働けるよう、現状を把握し、サービス向上につながる。
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	日々の様々な訴えに対し、否定せず傾聴を心がけ、個別に対応している。	○	今後も利用者の不安軽減に努め、安定した生活を送っていただけるよう支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談者からの問い合わせに対し、真摯に受け止める努力をしている。	○	電話対応のみならず、施設を見学していただき、信頼関係を築けるよう努めている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	幅広くサービス内容を広げ、個々の状態にあった対応をしている。	○	何らかの形でプラスとなるよう、相談援助業務遂行に励んでいる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前から現場職員に、状態等よく説明し、落ち着いた生活を送っていただけるよう配慮している。	○	細かい性格や生活歴を家族から随時聞き出し、他の入居者とも馴染みの関係が作れるよう努力したい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者とともに生活をしながら、相互的に友好を深めている。	○	日々当たり前にある様々な場面で、入居者と密着した生活を心がけている。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常時、家族への連絡・報告・相談を徹底して行っている。	○	直接、入居者の処遇に無関係な話題であっても、遠慮なく話をしていただけるよう、雰囲気作りを行っている。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居者、家族間の関係を良好に保てるよう配慮している。	○	入居者本人と家族の思いを両面から受け止め、良好な関係の維持に努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の要望に即した対応を心がけている。	○	住み慣れた地域との繋がりが途絶えぬよう、今後も支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を考慮した対応を行っている。	○	食事の席、外出時の組み合わせ等、トラブルが起きないように努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了後も、相談に応じている。	○	利用終了後、再度利用希望があった際には、当ホームを選んでいただけるよう関係継続に努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護ミーティングを重ね、全職員で入居者・家族の意向を確認し、問題点が出た場合も検討しケアを実施している。	○	連絡帳・ケアカンファレンスを通して共有している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の家族・本人との面接時に、過去の生活歴やこれまでの情報の把握をしている。	○	入居前の面接には充分時間をかけて、確認を行いたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	十分に把握できるよう、日々観察し、コミュニケーションを図っている。	○	日々状態に変化のある入居者の様子を細かく観察し、総合的に把握するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族も含め、医師・看護師・介護職員等の多職種で協力し、介護計画を作成している。	○	ケアカンファレンスにて、全職員が統一したケアを提供できるようにしている。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	都度、小ミーティングを開催し、状態に応じた対応ができるよう努めている。	○	今後も家族の同意を得たうえでの対応策を検討していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ケース記録・連絡帳を通して、職員間での情報の共有を図り、ケアの実践に取り組んでいる。	○	日々細かく変動する状態を必ず記録し、記録物には常に目を通すように全職員が徹底して行っている。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者本人や家族の思いを汲み取り、できる限り細やかな対応に心がけている。	○	本人や家族とよく話し合いをし、グループホームの特性を活かした、決め細やかな支援を実施している。
----	--	--------------------------------------	---	---

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	今のところ、十分な取り組みができていない。	○	今後は、管理者とも協議を重ね、地域に浸透していけるよう努力したい。
----	---	-----------------------	---	-----------------------------------

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて協議している。	○	入居者の状態や必要性に応じて、家族も含め協議していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて協議している。	○	入居者の状態や必要性に応じて、家族も含め協議していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前より家族と話し合い、家族の意向をお聞きし、継続してかかりつけ医と連携を図っていきけるよう支援している。また、特に希望が無い場合には、併設する特養の嘱託医と連携をはかれるよう、体制を整えている。	○	整形外科医、眼科医の往診を受けており、施設で出来る限りの医療ケアを提供できるよう努めている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	外来通院にて認知症に詳しい専門医と連携を図っている。	○	専門の医療機関に係る場合には、必ず家族の同意のもと、一緒に診察を受けるよう配慮している。今後も医療機関との関係を保ち、適切な医療を受けられるよう支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日々看護師に状態を伝え、健康維持に努めている。	○	今後も継続して連携を図っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、入居者本人の様子を病院側に詳しく説明し、対応がスムーズになるよう支援している。入院中も必ず様子を伺うようにしている。	○	入居者、家族に満足して頂けるように、今後も努力して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居前の面接時に本人・家族へ確認し、入居以降も更に主治医とも症状について話し合い、具体的な対応について全職員で共有している。	○	主治医、他医療機関とも連携し、最善の方法を話し合い、本人、家族の意向を含めた内容を全職員で共有している。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所のできる限りの範囲で提供するよう努め、急な変化にも充分対応できるように、全職員で取り組んでいる。	○	密接に家族と関わり、医療とも連携し、統一したケアの提供に努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化に伴う精神的混乱を最小限度に留めるよう、家族、医療機関も含め話し合い、情報の共有に努めている。	○	なるべく環境の変化を感じさせないよう配慮した支援を行っている。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	自尊心を傷つけることのないよう十分に配慮した対応を徹底し、個人情報の保護にも留意している。	○	言葉遣いには特に注意し「禁句チェック」を実施し、受容、傾聴の姿勢を心がけた対応に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の尊厳を重視し、自己決定を行えるようコミュニケーションを展開している。	○	各職員が研修等に参加したり、自己学習を行い、コミュニケーションの技術を磨き、対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に入居者のペースに合わせ、その日の希望にできるだけ添えるよう支援している。	○	入浴の時間は入居者の希望に合わせ、夜間入浴も実施している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の更衣については、ご本人の意思に一任している。 入居前からの馴染みの美容院に行きたい等の希望がある方には、協力している。	○	月 1 回の出張理美容サービスを殆どの方が利用されている。今後は、面談時に理美容について希望を聞きだせるよう、フェイスシートの項目に追加する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者が楽しみながら、できる作業をしていただけるよう支援している。	○	入居者が自発的に家事が行えるよう、支援していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者のお体の状態に合わせた嗜好品の提供をしている。	○	今後も本人の好みに配慮しつつ、主治医とも連携を図る。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握するのは困難ではあるが、皮膚の疾患にならないよう、できるだけ清潔を保てるよう努力している。	○	今後も状態の把握に努め、オムツを減らすよう努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合ではなく、入居者の希望に沿った入浴をしていただけるよう、支援している。	○	併設施設の温泉や別のユニットでも入浴していただく等、柔軟な対応お心がけている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	外部評価でもご指摘いただいた、開いた空間の有効利用で、入居者同士が語り合えるよう環境整備に努めた。	○	今後も環境改善はもちろん、充実した生活をおくっていただけるよう支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴を把握したうえで、入居者一人ひとりに適した活動（編み物・書道・カラオケ・製作・散歩・料理等）を提供している。	○	今後も更に活動領域を広げて対応して行きたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を行える方が少ない現状ではあるが、できる方には買い物場を提供し、支援している。	○	施設内での売店（月2回） 外出時の買い物（週2回）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に沿って、施設外への外出を支援している。	○	個々のその日の状態や希望を考慮した散歩、ドライブを今後も継続する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個別に誕生日の時などに、家族と共に外出する機会をつくり支援している。	○	今後も個別に希望を伺い対応したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由にやり取りが出来るように配慮した対応をしている。	○	携帯電話の利用や、手紙・ハガキを用意していつでも利用出来る様に対応して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方との関係が途絶えることの無いよう、いつでも訪問して頂ける環境作りをしている。	○	訪問時の場所の確保に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部・外部研修、ミーティングにおいて、理解を深め、身体拘束ゼロに向けたケアを行えるよう全員で取り組んでいる。	○	今後も継続して取り組んで行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間20時30分～翌朝の7時00分の間玄関のみ、施錠している。	○	居室はもちろん、グループホーム外にも自由に行き来していただけるよう、開放的な環境づくりに努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者がどこにいるのかを、職員間で確認しあい、所在把握に努めている。	○	入居者の中には、密着しすぎることを拒む方もいらっしゃるるので、個別に対応している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	共用スペースにおいては、状況・時間帯に応じて、入居者に危険が及ばないよう、危機管理をしている。	○	個々の状態に応じて、危険回避に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修等に参加し知識を深めると同時に、入居者一人ひとりに適した事故防止策についてはケアカンファレンスにおいて、積極的に検討している。	○	職員全員がケアカンファレンスの重要性を理解し、より充実したケアカンファレンスが出来る時間の確保に努める。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	ほぼ全ての職員が、ある程度の急変時に対応できるよう、日々、看護師から指導を受けている。	○	全職員が入居者の既往歴や薬の種類等の把握に努め、急変時に適切な対応が取れるよう、取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人々の協力を得るには至っていないが、定期的に訓練を実施している。	○	職員は地域の消防署が主催する勉強会に参加し、防災に対する意識向上に努めている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者ごとにリスクマネジメントを実践している。	○	介護計画作成時、リスクについて検討し、対応に活かしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の体調に変化や異変にはできるだけ早く発見し、主治医・看護師と連携し、対応できている。	○	職員は内部研修にて、知識を深めるとともに、夜間帯における急変時の対応についても、マニュアルを作成し、迅速な対応を実行せきよう体制を整備している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	殆どの職員は薬の内容について充分理解できており、常時学習していく姿勢がある。	○	症状と薬の効果・副作用等の知識を深めていきたい。また、今後も誤薬防止に努め、確認に確認を重ねるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	主治医・看護師との連携はもちろん、内部・外部研修にも積極的に参加している。	○	管理栄養士との連携強化を図っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後とは言えないが、一人ひとりの状態を把握し、口腔ケアに取り組んでいる。	○	今後も歯科医師・歯科衛生士と連携を図り、口腔衛生の保持に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりの状態に応じた必要摂取量の把握ができています。急な食事形態の変更にも迅速に対応しています。	○	入居者の嗜好に応じた食事の提供ができるよう，管理栄養士と連携を図っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症対策には施設全体で取り組み，全職員重要性を理解し，周知徹底している。	○	感染症対策の知識を更に深め，予防や発生後の対応について強化したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	管理栄養士からの指導を受け，衛生管理に留意している。	○	食材に関しては管理栄養士と連携し，新鮮な食材を提供している。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の人等の交流はできていない。	○	施設は高台に位置しているため，なかなか難しい現状である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者とともに作った，季節感を取り入れた製作品を展示したり，照明にも配慮するなど，居心地の良い共用空間の確保に努めている。	○	今後も穏やかに過ごしていただけるよう，季節感溢れる共用空間を提供していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間においてはスペースの問題も有り、なかなか確保が難しく、完全な提供には至っていない。	○	何とか工夫し、一人になれるスペースを確保したい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前からの使い慣れた物を持ち込んで頂き、施設でも変わらず穏やかに生活して頂ける配慮をしている。	○	馴染みの家具、備品を使って頂くように、本人、家族に依頼し、持ち込んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員の体感温度ではなく、入居者の状況に応じた温度設定を心がけ、換気にも配慮している。	○	換気は定期的に行い、臭いの特に気になる所には脱臭機を設置して対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立心を奪うことのないよう、残存機能に配慮し、楽しく生活が送れるように留意している。	○	安全で、拘束のない生活を提供して行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの理解力を把握し、活かして頂けるように心がけている。	○	今後も継続する。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダのスペースに問題はあるが、できる範囲で楽しんで頂けるように配慮している。	○	散歩や洗濯物の干し場に留まっているので、もっと有効的に利用して行きたい。